



パワー

(電力・動力)

2014

春

株式会社 **ホンマ電機**
情報紙67号

発行所
株式会社 ホンマ電機
神奈川県相模原市南区上鶴間1丁目12-1
電話 042(746)1616(代)
ホームページ **ホンマ電機** 検索
発行責任者 本間俊三

国のエネルギー政策はどこへ行く

『ゆで蛙の危機』

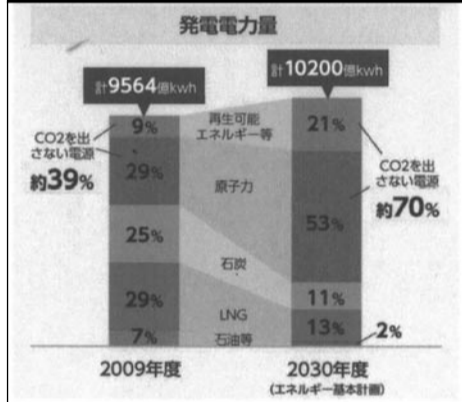
2010年、民主党政権時代に策定されたエネルギー政策は、地球温暖化問題を受け、CO₂を出さない発電エネルギーとして、原子力による発電の割合を30%から53%にし、自然エネルギーによる発電エネルギーを9%から21%に引き上げるものでした。こうしたことにより二酸化炭素を出す石炭やLNGによる発電の割合を、25%まで減らすことでした。

それは、鳩山元総理が2009年の総選挙で打ち出した地球温暖化防止のマニフェストに沿ったものでした。その後さらに、2020年までには1990年比25%減を国際公約しました。◆今、地球規模の課題は？
今でも地球規模の最重要課題

2010年当時の危機意識

基本計画決定の2010年当時、地球温暖化問題は国民の関

2010年に策定したエネルギー基本計画における想定



は、当時と変わる筈もなく、シワツツ進行する地球温暖化により引き起こされた異常気象災害でありましょう。にも拘らず東日本大震災以降、国のエネルギー政策は一転、二酸化炭素排出に目をつぶり、放射能対応に重点を置いています。この姿は『ゆで蛙の危機』に例えられないでしょうか。シワツツと進行する環境悪化には順応できるので、鍋から飛び出そうともせず、気が付いた時には手遅れとなるあの蛙の話です。

◆年末の餅つき恒例行事
昨年12月27日(金)夕暮れ、仕事納めと社員の慰労を兼ねた恒例の餅つきパーティーを開催。若い社員が増えたことで、20kgの餅は例年より早くつき上がりました。餅つきの傍らではパーベキューの鉄板焼きを囲んでの団欒となりました。互いの仕事への労いと共に、新年の工事への心構えなど語り合いました。

2014年 私の提言

代表取締役 本間俊三
三 向いていきます。また失業率が改善した半面、我が建設業界は職人不足が顕在化。他業界でも人手不足は深刻のようです。公共事業では入札不調が相次ぎ、積算の見直しなども検討されだしています。ただ、いかなる事態にあっても、企業や事業者、施設に於いては、環境配慮経営を疎かにすることはできません。

今年も地域とともに

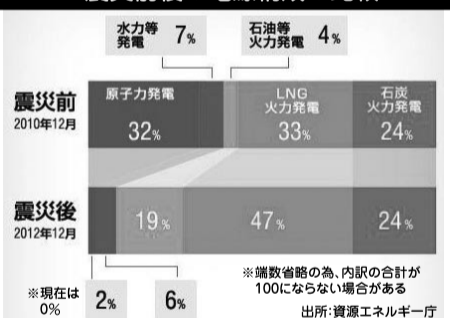
「コアクション21」の認証登録を取得。このたび登録更新の時期を迎え、これまでの環境活動を振り返ってみました。エネルギーや資源の節約に加え改めて考えさせられた項目が『地域社会とのコミニケーションを図る』項目。目標は体となり生活環境保全に努め、企業も地域社会の一員である」と謳っています。弊社が配慮すべき事項は、省エネと廃棄物の適正処理、特にフロンガスやPCB含

有廃棄物の扱いです。お陰様で更新審査も特に問題がなく環境活動レポートを中央審査会に回すことが出来ました。話は変わりますが先日、地域の県立高校の校長先生から、プラスバンドの楽器を運びたいとの相談があり、弊社のトラックを用立てました。神社や自治会にも同様に用立てています。空いている時はどうぞと使ってもらっています。

「コアクション」で謳う地域社会との「コミニケーション」とは、次元の違うことかも知れませんが、こうしたことでもお役に立てれば嬉しい。さらに弊社には工用資器材が色々あります。大小様々な小型発電機、チェンソー、ドリル、油圧ジャッキ、ボールユニット車などなど。災害時には大いに役立ちますし、必要とあれば使ってもらいたいと思っています。

これからも未永く、地域社会と共にあるとの気持ちを忘れずに歩んでゆきたい。

震災前後の電源構成の比較



二酸化炭素除去技術が進歩したとはいえ、この落差をどう受け止めればよいのでしょうか？世のマスコミも評論家も学者も口をつぐんでいません。その間にも温暖化は進み『ゆで蛙の危機』は進んでいるのです。

新入社員紹介



西岡 大 (27歳)
入社 平成25年12月
第2種電気工事士 (エアコンサービス)
冷媒回収技術者資格
高知職業能力開発短大卒

◆寒鰯汁(どんぐら汁)の会開催
この時期、日本海は北西の季節風で荒れます。この季節風と荒波にもまれ、産卵のために岸に寄ってくる真鰯は脂がのって実に美味です。



鰯鍋を賞味する会の人々



グランプリを受賞した山形鰯鍋(どんぐら汁)



つき立ての餅を楽しむ年末行事・パーベキュー

63 近況報告

このイメージマークはサービスマークとして登録されています。



安全安心なまちづくり 地域防犯活動の実践

平成26年2月2日(日)、神奈川県くらし安全交通課主催による講演会と事例発表会が、かながわ労働プラザで行われました。

講演はNPO法人・体験型安全教育支援機構代表・清永菜穂氏が「次世代防犯ボランティアの姿」について話をされました。講演の一部を要約して紹介します。

「犯罪からの安心安全」は誰のためでもなく私たち一人ひとりのためにある。犯罪から身を守るためには、努力する責任があることを自覚しなければならぬ。日本人は、空気と安全はタダと思っている人が多いと言われているが、考え直す必要がある。また、防犯に対する行動は一人で行うのではなくスクラムを組み、率先して行うことが大切だということだ。

具体的に私たち市民のできることについては、三位一体の重要性を説かれました。二位とは、市民・自治体・警察であり、それぞれの役割やできることが異なるため、一体となることで大きな力が発揮されるということだ。

市民ボランティア

最初に、自発的・協調性・無償有償性・利他公共性の4つの基本要件について解説されました。

さらに、地域的に限定するしかないか、専門性の要、不要に関する4つに区分されるとのこと。

ボランティア事例の一つとして、今、特に社会に求められている「子供まもり」を上げて説明し、防犯ボランティアとは最終的に、地域社会の破れ目・裂け目を見守る人と結論付けました。

最近では子供まもりに「青色灯搭載パトロール車」(掲載写真)を活用する例が増えてきました。

犯罪の発生

犯罪の発生に関する2つの視点から、伝統型犯罪と現在型犯罪発生についても説明されました。地域防犯活動を実践されている多くの聴講者にとっては、とても役に立つ講演会でありました。



児童の登下校を見守る青パト車



ホンマ電機が寄贈した青パト車

ホンマ電機は、昨年3月設立された「NPOさがみはら市民交通安全パトロール」へ、青パト車2台を寄贈しました。青パトは同NPOによって、地域の防犯啓発や児童の登下校時の見守りに、頻りに活用されています。

青色灯搭載パトロール車

通称「青パト」と呼ばれる自衛防犯パトロールに使用される車です。警察のパトカーと同様の白黒塗装の車は、自治体が自治会などに貸し出しているものです。他にも一般の自家用車(乗用車・ミニバン・軽トラ等)を、覆面パトカーに似せてマグネットタイプの青ランプを貼り付け、パトロールしているところもあります。各自治会が防犯活動を行う時に地域を周ります。特に子供の登下校の時間帯を中心にパトロールする際、使用されます。運転する人は町内会などで役員(防犯担当)になった方です。

家具の大正堂 相模原本店 広告塔照明のLED化

BUSINESS フィールド

このたび、家具の大正堂様の広告塔照明のLED化工事を(一命頂きました。家具の大正堂様は町田・神奈川を中心とする首都圏全域に店舗展開する高級家具専門店、100年の歴史を有しております。店舗は、国道・県道などの主要道路に面しており、建物規模の大きさとともに、大きな広告塔にも特徴があります。

同店では今、広告塔照明の管理コスト削減と、照明効果の増強を図る目的で、



広告塔照明のLED化工事

LED化工事が進められております。これまで広告塔などの照明は、水銀灯などに代表される放電灯が主流でしたが、効率や寿命に問題がありました。時期、長寿命の無電極放電灯が注目を浴びた時期もありましたが、今ではランプと器具の改良が進み、LED照明が一般的となりました。

このたびは、相模原本店をはじめ7店舗の改修の工事を完了しました。この改修により、大幅な電力消費削減と、ランプ交換などのメンテナンス費用削減を果たすことが出来ました。特に地上高のあるランプ交換費用が、高額なものとなってしまつたからです。また、LED照明の特徴である点光源は、そのスポット効果により、看板などの照明には最適といえます。弊社では、このような作業も直営の社員技術者が行うため、アフターサービスの面でも、お客様の大きな信頼を得ております。

企業ルポ

お客様紹介 66



株式会社家具の大正堂

本部：〒252-0398 相模原市南区上鶴間本町9-50-45



代表取締役社長 渋谷 金隆氏

TEL.(042)701-5211(代) FAX.(042)701-5331

URL: <http://www.rooms-taishodo.co.jp>



大正堂本店



広い店内



広いリビングのリフォーム



社員と地域の人々の森づくり



キッチンの耐震リフォーム

- 株式会社 家具の大正堂 (ルームズ大正堂)
- ・設立 昭和45年1月22日
 - ・代表取締役 渋谷 金隆氏
 - ・資本金 1億円
 - ・年間売上高 100億円
 - ・家具店舗 本店・登戸店・鶴ヶ峰店・戸塚店・玉川店・あざみ野店・八王子店・つじどう店・新横浜店
 - ・リフォーム営業所 さがみはら・鶴ヶ峰・八王子・つじどう・新横浜・戸塚の6営業所
 - ・従業員数 500名
 - ・事業内容 家具・インテリア等の販売、住宅の新・増改築

今年、大正元年創業の同店は、100+(プラス)2即ち創業102年を迎えました。16号線沿いの大きく開かれた広々とした駐車場は、いかにもお客様の利便性に適った、同店の特色でもあります。これは「お客様が止めやすく、見やすく、買いやすく」と、先代渋谷栄二氏の提案に沿ったものです。

同店の創業は、小学校教師を務めた現社長の祖父渋谷重郎氏の妻・現社長の祖母が、原町田で文房具と日用雑貨店を大正元年に大正堂として開店。浅草橋の節句の人形店に勤務していた次男の父栄二氏が戻り、暖簾分けにより大正堂第二売り場として靴や傘等の専門店を開始。昭和29年(有)大正堂専門店の設立です。昭和39年大正堂家具センター町田店を新設し、家具業界へ進出。昭和53年本店を現地相模原市上鶴間に移転しました。

「いいものながくおつきあい」関東一円に9店舗を展開する同店の信条です。そしてよい家具を同店のグループ会社で親切、丁寧に配達することも特色の一つです。

昭和56年リフォーム部門開設。リフォームは家具で馴染みになったお客様を始め、100年の老舗の信頼を背景に展開。住まいの安全性・快適性・持続性を追

求した提案から、着工・竣工・アフターサービス迄行っています。横浜市・相模原市の木造住宅耐震改修促進事業の登録者として、補助金を利用した耐震リフォームの施工も多数あります。

本店裏の斜面400坪が雑木林と笹藪でしたが今、社員と地域ボランティア達により新たな森へと変貌を遂げつつあります。同店と地域一丸となった森づくりは植樹に始まり、市のみどりの協会から苗の提供もあります。渋谷社長は「家具もリフォームも木がなければ仕事になりません。私達は使うばかりで、木を育てなければと思い立ちました。地域の方たちが花を植えたり、お客様の入学・結婚・増築記念に植樹して頂ければ」と話されました。森づくりとは、なんと時宜に合った発想なのでしょう。

弊社は同社の電気関係の工事に関して、長いおつきあいをさせて頂いております。